



# 井辺遺跡現地公開

—都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良事業に伴う発掘調査—  
和歌山平野における古墳出現期の集落遺跡

公益財団法人和歌山県文化財センター  
和歌山市湊 571 番地 1  
TEL：073-433-3843  
FAX：073-425-4595

井辺遺跡・神前遺跡発掘調査事務所  
和歌山市神前 18-1 遺跡調査地  
TEL/FAX:073-472-0422

## 1. はじめに

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、和歌山県より委託を受け、都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良事業に伴い井辺遺跡と神前遺跡を調査しています。調査地は和歌山市神前に所在し、約 4000 m<sup>2</sup> の調査を行っています。この度、発掘調査によって井辺遺跡西部分の集落の状況が判明したため、調査成果を公開します。

## 2. 調査成果

現在、井辺遺跡部分を調査しており、弥生時代後期から古墳時代の大きな溝を検出しています。また、隣接地の調査（2011 年調査）では、竪穴建物 3 棟を検出しており、今回の調査区と合わせて、不明であった井辺遺跡西部分の集落の様相を明らかにできました。

竪穴建物は、調査区北西から西に存在する微高地（地形の高まり）の上に位置しています。竪穴建物が存在する居住域から、南東方向には緩やかな傾斜が存在し、その傾斜変換点付近に溝 1（古墳時代初頭）が、傾斜裾部分には、溝 2～溝 5（弥生時代後期から終末期）が掘削されています。溝 1 は、幅 2m、深さ 1.5m、断面形は二段掘りの南北方向に流れる溝で、複数回に渡り再掘削が行われたと考えられます。溝からは多量の土器が出土しています。また、溝 2～溝 5 は、幅 1.5m、深さ 1m、断面形は U 字形～緩やかな V 字形を呈する南北方向の溝です。4 本の溝は平行して流れ、途中屈曲し、南西方向へ流れをかえます。また、溝の屈曲部分には小溝が接続し、互いの溝をつないでおり、溝間で水流を分岐させていたと考えられます。溝の性格については、居住域の周辺に掘削された用水・排水路と考えられます。溝の埋没後、少し時代の下った古墳時代中期以降には、畑跡と考えられる畝状痕跡を検出しています。居住域の存在する微高地周辺の斜面は、畑地として利用されたことがうかがえます。

一方、調査地の南から南東部分では、幅 50m 程の大規模な谷状地形を検出しており（2010 年調査）、今回の調査でも、この谷状地形の一部を検出しています。この谷状地形は、弥生時代後期には自然流路として存在しており、古墳時代初頭以降に徐々に埋没し湿地となり、陸地化していったと推定されます。



調査位置図



溝 2 全景



弥生時代終末期の銅鏃



溝 2 から出土した土器

## 3. まとめ

井辺遺跡の西集落では、竪穴建物をはじめとする居住域が微高地上に立地していることがわかりました。そして、この微高地から南・南東方向にかけて地形の傾斜がみられ、その先には谷状地形が存在しています。集落の周囲には溝が巡っており、用水・排水路として機能していたと考えられ、この溝は谷状地形へと続いているものと考えられます。

今のところ、井辺遺跡の遺跡範囲内には少なくとも 2 から 3 つ程度の居住域の存在が想定されており、今回の調査成果は、井辺遺跡の西部分の集落とその周辺の状況を明らかにしたといえます。井辺遺跡は、弥生時代後期以降に遺構・遺物が確認されることから、この頃より集落が営まれたと考えられます。発掘調査からは、この地に人々が移り住んだころの状況が明らかとなりました。

